

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

県連環境問題を考える会 オープン学習会

日時▶2023年3月2日(木) 18:00~19:00
場所▶坂総合クリニック1号館8階(オンライン併用)
COP27(国連気候変動枠組条約第27回締約国会議)に参加したFridays For Future Sendaiより報告
鳴原さん(東北大学農学研究所修士1年)
清野さん(東北大学経済学部3年)
主催/県連環境問題を考える会

みやぎ民医連

発行所 宮城県民主医療機関連合会
仙台市青葉区木町通1-8-18
〒980-0801 田村ビル5F
TEL 022-265-2601
FAX 022-263-8266
e-mail:dai@miyagi-min.com
発行人 坂 田 匠
1日・15日 月2回発行 1部50円



演題発表の様子



メイン会場の4階会議室



密にならないよう2階会議室にサブ会場を設置

古川民主病院 院内から院外へ、 連携を院外から院外へ、 そして地域へ

古川民主病院 医師 佐藤 英之



古川民主病院では1月19日に、「つなげよう、連携の輪」をテーマに院内学術集談会を行いました。昨年は3演題と叙しかったですが、今年はいっせいで各部署へ声掛けを始めた結果、1回では収まりきれない数の演題を応募いただきました。泣く泣く10演題に絞り、院内医科・歯科、ケ

アステーションあゆみ、つばき薬局古川店と幅広く発表してもらいました。会場も密にならないよう配慮し、4階会議室をメイン会場に、2階会議室にサブ会場を設け、Zoomとカメラでつなぐという新しい取り組みにもチャレンジしました。古川民主病院は職員数100名強の小さな病院

ですが、それでも他の職種、他の職場がどんな業務をしているか、どんなことに取り組んでいるかを把握するのは難しいと感じています。自分たちが取り組んでいることについて振り返り、まとめて外に向けて発信することで、他の職場・職種に知ってもらい、新しいつながりができ、さらなる

取り組みが発展していくためには大切だと思えます。今回は、院長賞に「地域包括ケア病床で補助栄養剤を採用してみたの評價」(食養管理栄養士・横田佑香さん)、実行委員長賞に「認知症の利用者とその家族と、リハビリ



表彰されたみなさん
左から、津田ひな子さん、加藤千恵子さん、横田佑香さん、岩切陽香さん

【寄稿募集】みやぎ民医連新聞では各法人・事業所の取り組みの原稿を募集しております。宮城県民医連メールアドレスまでお寄せください。e-mail:dai@miyagi-min.com

「健康手帳」文中のアロマティックアセクシヤルについて
「アロマティック」とは、恋愛感情を抱かないこと。アセクシヤルとは、他者に性的に惹かれないこと。どちらの面でも他者に惹かれない人を、アロマティック・アセクシヤルと呼ぶ。

2023年1月15日、宮城県民医連保育部会、主任・副主任・リーダー保育士を対象とした研修を行いました。「主任の役割と職員集団づくり」というテーマで、京都華頂大学の西川由紀子氏による講演後、役割別のグループワークを実施しました。宮城厚生福祉会の保育園6園から24名が参加しました。

講演では、「こんな時どうする?」といった現場で起きた事例をもとに、主任保育士だけが業務を抱えるのではなく、職員を育成する立場として業務を整理し役割分担

2022年度 県連保育部会研修
主任の役割について学び深めた
乳銀杏保育園 保育士 小幡 幸拓

していくことが必要と話されました。また、「見張られる」ではなく「見守られる」の安心できる雰囲気づくり、コロナ前の保育現場を知らない若手職員の悩み、コロナ禍の養成校の学生の実態等も触れられました。

講演後には、「法人・事業所内での自分たちの役割とこれからを考える」をテーマに、役割別のグループワークを実施。自分たちの役割は「安心できる働きやすい職場にするための管理部と現場のパイプ役」「緊張せ



健康手帳

このところ外出を控えるようになり、テレビ視聴時間が増え、最近のドラマが多様化していると感じている。ドラマ以外でもジャンル平等や多様性をテーマにした番組をみて、いかに自分が育ってきた時代はそれに反する教育・環境だったのかと改めて思い知らされる。▼例えば、今やランドセルの色は何色あるのか。とてもカラフルだが、私の子ども時代には女子は赤、男子は黒と決まっていた。体育着は男女で色も形も違っていた。▼岸井ゆきの高橋一生が主演のNHKのドラマ「恋せぬふたり」はアロマティック・アセクシヤルの2人が同居し、自分らしい生き方を探す話でとても印象的だった。

▼「LGBT」は広く知られるようになったが、「LGBTQ+」という表現もあり、Questioning(自身の性がまだわからない)・決めていない・あえて決めない、+プラスはこうした言葉では表現しきれない、性の多様性のことや表している。マイノリティーが声を上げやすくなってきたといえる。いえ、まだまだ生きにくい状況であり、SDGsの理念である「誰も置き去りにしない」世の中になるよう、皆で一緒に取り組んでいきたいものだ。

連載 148

私の好きな憲法は何条?

厚生福祉会 事務局部長 榎 文武

先日、趣味の釣りに行くために午前2時に自宅を出発。はやる気持ちからか、危うく信号を無視しそうになりました。すると対向車からパトカーが。ドキドキしながら「止まったし、道路交通法違反じゃないよな?」と考えていました。日常の中でふと、様々な法律を意識する場面がありますが、実は一番意識してないのが憲法なのではないかと感じています。憲法に初めて触れたのは、

中学3年生の公民の授業だったと思いますが、当時の先生の先生は、日本国憲法の前文を踏まえ、憲法のすばらしさについて熱く語っていたのを微かに覚えています。しかし、それから30年近く経つたいまでも憲法を日常で意識した記憶がありません。なぜ意識してこなかったのかを考えると、これまで私自身が健康にそして平和な世の中で、自身の権利や人権が侵害されることなく生活してこられたからだと感じています。

一方、最近のメディアでは、安保3文書や集団的自衛権の閣議決定で、他国の戦争の参加や軍事費の拡大・増税を方針として決定したり、旧統一教会の問題では本人の意思とは関係なく生活が壊されたりと、「人権」や「平和」について考えることが増え、憲法を考える場面が増えていくと感じています。日本国憲法では、当然のことですが「人権」や「平和」が保障されている、それを第99条の擁護義務で「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。」と記載されていますが、

それが守られなくなるかも?と感じるからこそだと思っています。さて、タイトルに戻りますが、日本国憲法のどの条文も私たちの「人権」や「平和」を定める条文でどれも素晴らしいと感じますが、その憲法を守る義務を定める第99条の憲法擁護義務は立憲国家を定めるとも好きな文章です。だからこそ、立憲主義を守る議員を選挙でしっかりと選ばなければならぬし、権利や平和を意識をしなくても当然である世の中になればと感じるこの頃です。

2022年度中間管理者研修 職員育成や 職場づくりの実践を交流



意見交換にも次第に熱が入る

1月21日、宮城民医連 賢さんのあいさつで始まった中間管理者研修は、坂総合病院、長町病院、泉病院、古川病院の4会場と、WEB参加で行われ、県連職員の師長・課長・室長・主任・係長などの中間管理者77名が参加しました。全日本民医連職員育成指針を振り返り、参加者が悩

みなどを交流する場をつくり、今後の職場作り、職員育成の実践のためのヒントをつかむことが目的です。各法人・事業所の取り組みでは、長町病院外来主任・粕谷知未さんの「これまでの経験とこれからの取り組み」、田子のまち課長・高橋純子さんの「安心して成長できる職場」田子のまちの実践を通して、つばさ薬局古川店事務長・千葉大志さんの「つばさ薬局の職員育成の取り組みと課題について」、坂総合病院リハビリ室室長・村上栄子さんの「工業会の品質管理を参考にした収益改善の取り組み」の報告がありました。

また、「職場を職員育成の拠点に」をテーマに、中間(職場)管理者アンケートの結果について、藤澤さんより報告がありました。職員育成指針「職場づくり8つの視点」に基づき、県連内各事業所の中間管理者を対象にアンケートを行い、昨年11月9日から12月29日までの期間で291名中113名から回答をいただきました。

1月24日、北海道・東北地協社保委員会の主催で安保3文書の学習講演会が開催され、オンラインで約300名が参加しました。講師は、防衛ジャーナリストの半田滋さん。「敵基地攻撃と日米一体化 防衛費倍増は国民負担」と題して約80分の公演でした。

安保3文書とは、国会安全保障戦略、国会防衛戦略、防衛力整備計画のことで、昨年の12月16日に3文書の改定が閣議決定されました。半田さんは、これは日本の安全保障政策の大転換であるとして、2つの重大な問題を指摘しました。1つ目は、「敵基地攻撃能力の保有」を決定し、「反撃能力」と言い換えながらも、自衛隊と米軍が一体となりながら先制攻撃ができることとしたこと。2つ目は、「防衛力を5年以内に抜本的に強化」することとして、5年間の防衛費を43兆円とすること

半田さんは、3文書改定の決め方について、国民の漠然とした不安に便乗し、国の安全保障政策に関わる重大事項にも関わらず、国会で議論することもなく、国会後に急に閣議決定したことを「独裁へのお墨付き」と批判。「敵基地攻撃能力の保有」や「防衛力の抜本的強化」のための大増税そのものへの賛否を問うことなく、世論が財源論にすり替えられようとしていることに警鐘を鳴らした。

また、防衛費増額の財源として政府が示した内容についても詳細に説明。防衛力強化基金、決算剰余金の活用、歳出改革などはどれも効果が限られていること。税金では、法人税は財界の反対が強

平和を実現するため、政府に本気の外交を迫っている



「ベテランへの意見が言いつらい」、「同じ中間管理者として悩みを分かち合えた」、「それぞれの職場の率直な意見を聞けた」

最後に、県連事務局次長・石澤旬さんの閉会あいさつで中間管理者研修は終了しました。

敵基地攻撃の保有が先制攻撃となる理由について、半田さんは、安保法制で示された、日本が武力行使できる3つの要件の中に、日本への武力攻撃(武力攻撃事態)のほか、日本と「密接な関係にある他国」に対する武力攻撃(存立危機事態)があることを指摘。「密接な関係にある他国」には米国が含まれており、米軍が攻撃された場合には、日本が攻撃されていなくても、存立危機事態として日本が他国を攻撃できることとなり、それは国際法違反の先制攻撃であると批判しました。

最後に、平和は軍事力ではなく、命がけの外交によって初めて実現すると強調。わたしたちは重い負担を引き受ける軍事力強化を望むのか、選挙で意思を示すことが必要であり、そのために愚直に、地道に粘り強く働きかけていこうと呼びかけました。

大企業増税は難しく、たばこ税では数千億円程度の増収にしかならないことを指摘。結局は所得増税か消費税増税の国民への増税となると話しました。



講師の半田滋さん



オンラインの参加者



7つのマチガイ
[問題]上の絵と下の絵では7つのマチガイがあります!どこでしょう? (作・野上和彦)



クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し県連事務局に送ってください。メールは不可。Facebookは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。声の欄に掲載させていただきます。応募資格| 臨時・パート含む県連職員。締切3月17日。当日消印有効。発表4月1日。1月1日号まで。ワタドリ(渡り鳥)応募総数18件。当選者| 今野洋子/ケアステーション郡山、菊地貴子/ケアステーションあゆみ、小野寺寛/松島海岸診療所、杉井知子/下馬みどり保育園、伊藤初恵/田子のまち(敬称省略)